



ユーラシア研究所レポート No.12

2012年9月8日

ロシアの新しいビジネス・エリート – 「プーチンの友」

加藤 志津子

概要

大きなビジネスチャンス秘めるロシアには多数の外国企業が進出し、積極的に投資を行っている。そのロシアでは、市場経済へ移行する過程において政府が大きな役割を果たしてきた。本稿は、プーチン時代に台頭してきた新しいビジネス・エリート「プーチンの友」に焦点を合わせ、ロシア・ビジネスの一断面を明らかにしたい。

はじめに

ロシア経済はプーチン氏の政治指導（2000-2008年大統領2期、2008-2012年首相、2012年6月に大統領復帰）の下で、2000年以降、平均5.3%の高いGDP成長率を記録している。これは石油・天然ガス価格の上昇に起因する個人消費の拡大が主導する成長である。そのため、先進諸国を中心とする多数の外国企業が増大する中間層をターゲットとしてロシア市場への進出を進めてきた。他方、ロシア政府は資源依存経済からの脱却を目指して外資と提携しつつ、自動車産業、家電産業、IT産業、ナノテクノロジー等新産業を成長させようとしており、多くの外国企業が直接投資にも乗り出している。日本企業もその例外ではない。大きなビジ

ネスチャンス秘めているロシア市場に挑むには、ロシアが市場経済へ移行する過程で政府が大きな役割を果たしてきたことを踏まえ、ビジネスの担い手たちと政府の関係について知っておくことが望ましい。そこで本稿は、プーチン時代に台頭してきたロシアの新しいビジネス・エリートに焦点を合わせてロシア・ビジネスの一断面を明らかにしたい。

1991 年末にソ連が解体し、ロシアは 1992 年初めからエリツィン大統領の下で市場経済化を急速に進めてきた。多数の国有企業が民営化され、私企業が成長し、経済の主要な部分は私営セクターとなった。その過程で最初に現れたビジネス・エリートたちは「ノーメンクラトゥラ」（社会主義時代の指導的階層）などとのつながりを多かれ少なかれ持った人々であった。彼らは政官との関係を強め、政官に影響力を行使するようになった。特に中央では、オリガルヒ（oligarch）と呼ばれる有力ビジネス・エリートがエリツィン氏の親族をも含む「エリツィン・ファミリー」を形成し、国家捕獲（state capture）といわれる政官財の関係が生まれた。

ビジネス・エリートの交代とその概要

では、プーチン指導下のロシアのビジネス・エリートは、政官の特別な擁護なしに事業を成功させてきたが政官に反抗はしない人々だと見てよいのであろうか？ 実はそうではなく、プーチン氏の擁護を受けた新しいビジネス・エリートたちが「エリツィン・ファミリー」に取って代わり成長を続けているという見方が、ロシアでは幅広く支持されているようである。「プーチンの友ーロシアの新しいビジネス・エリートー」（Mokrousova（モクロウソヴァ）著、2011 年）は、そのような見方の集大成のような書物である。以下、このジャーナリストの本を参考にしながら「プーチンの友」といわれるビジネス・エリートがどのような人々であるかを見てみよう。「プーチンの友」を、プーチン氏と知り合った場所で分類すると次のようになる。

(1) 少年時代の柔道場

プーチン氏は 1952 年にレニングラード（現在のサンクトペテルブルク）で生まれた。1965 年に地元のスポーツクラブに通い始め、柔道に熱心に取り組んだ。そこ

で Rotenberg 兄弟（Arkady 氏と Boris 氏、表参照）と仲良くなった。ソ連解体後、Arkady 氏はスポーツ大会の開催業務を行う協同組合を創設した。1996 年、Rotenberg 兄弟はフィンランドに会社を設立し、バーター取引のビジネスを行い Gazprom のガスコンデンセートも扱った。また、Severnyi Morskoi Put 銀行を買い取り、その後、Boris 氏も銀行業に従事するようになった。Arkady 氏はスポーツクラブ Yawara-Neva を創設し、プーチン氏がその名誉会長となった。

表 ロシア長者番付（2011）に見る「プーチンの友」

順位	氏名	資産額	地位	生年
17	G. Timchenko	89億ドル	石油商社Gunvor、Rossiya銀行、天然ガス企業Novatekの共同所有者	1952
63	A. Rotenberg	17.5億ドル	スポーツクラブYawara-Neva会長、Severnyi morskoi put' 銀行共同所有者、天然ガス採掘業関連建設企業Stroigazmontazh共同所有者	1951
64	B. Rotenberg	17.6億ドル	A. Rotenbergの弟であり、ビジネスパートナー	1957
115	Yu. Koval'chuk	9.7億ドル	Rossiya銀行筆頭株主	1951
182	D. Gorelov	5.9億ドル	医療機関向けサービス企業持ち株会社Petromed会長、Rossiya銀行共同所有者	1948
184	N. Shamalov	5.9億ドル	Rossiya銀行共同所有者	1950
187	V. Smirnov	5.8億ドル	天然ガス企業Novatek共同所有者、副会長	1967

出所："Reiting rossiiskikh milliarderov 2011," Finans, no. 5 (384), 2011 より作成。

（2）レニングラード国立大学

プーチン氏はレニングラード国立大学法学部に進学した。同じクラスで最も親しかった級友の一人は、V.Khmarin 氏（後に Rotenberg 兄弟、Gazprom と共同事業）であった（以下、カッコ内は最近の肩書）。Yu.Nesmeshnyi 氏（石油業専門保険会社 Belneftestrakh 社長）も級友だった。

2012 年の連邦予算では、原油価格を 1 バレル当たり（以下同）115 ドルと想定しているが、ロシアから輸出されるウラル原油の価格は年明けの 111.60 ドルから 6 月 21 日には 90.08 ドルまで低下している（1～5 月の平均値は 115.6 ドル）。一部の観測では、年末までに 50 ドルまで低下するといわれる（2012 年 6 月 18 日付「Expert Online」）。2012 年の財政は GDP 比 0.1%の赤字が予定されているが、油価低下が持続すれば、赤字幅の増大が不可避となる見通しである。このようにロシア経済が原油価格の動向に大きく影響を受けるようになったのは、原油価格が高騰し始めた 2004 年以降である。

(3) ソ連国家保安委員会 (KGB) ドレスデン駐在

大学卒業後の 1975 年、プーチン氏は KGB に入った。1985～1990 年にはドレスデンに駐在していた。そこでのプーチン氏の同僚として、S. Chemezov 氏（国家コーポレーション Rostekhnologiya 会長）、V. Golubev 氏（天然ガス企業 Gazprom 副会長）、A. Akimov 氏（Gazprombank 会長）などがいた。

(4) レニングラード（現サンクトペテルブルク）市政府

ベルリンの壁崩壊後、ロシアに戻ったプーチン氏は 1990 年にレニングラード市政府に入り、1991～1996 年に対外経済委員会議長を務め、レニングラード市における外資導入や外国からの支援物資（食糧と薬）の受け入れに関わった。その過程でレニングラード市はさまざまな企業の創設者になり、またレニングラード合弁企業連合（LenASP）と協力関係にあった。V. Musin 氏（Gazprom 取締役）はサンクトペテルブルク国立大学法学部教授としてプーチン氏と親しかった。Litvinenko 氏（肥料会社 FosAgro 会長）はサンクトペテルブルク国立鉱山大学学長で、プーチン氏は同大学で修士号を取得した。V. Kolovai 氏は LenASP 創設者で、Rossiya 銀行創設にも関わった。Yu. Kovalchuk 氏（表参照）と A. Fursenko 氏（Rossiya 銀行元共同所有者）は、レニングラード国立大学物理学部の教員であったが、LenASP の支援を受けて実業家に転身した。V. Yakunin 氏（ロシア鉄道総裁）はレニングラード国立大学で勤務していたときに Kovalchuk 氏らと知り合い、彼らのビジネスに参加した。D. Gorelov 氏（表参照）は、1991 年に Petromed が創設されたとき、プーチン氏率いる市対外経済委員会とともに創設者となった。

(5) Rossiya 銀行

Rossiya 銀行は、1990 年 6 月に商業銀行として登記された。主たる発起人はソ連共産党レニングラード州委員会であった。同年 8 月にはソ連共産党が解散したため、いったん Rossiya 銀行の口座は凍結されたが、当時のサブチャーク市長と市対外経済委員会議長のプーチン氏がこの銀行を「経済安定化」のために利用することを決定した。1991 年末に、LenASP 幹部と関係のある幾つかの企業が Rossiya 銀

行の持ち分を買い取った。Kovalchuk 氏、Fursenko 兄弟（アンドレイとセルゲイ）、Yakunin 氏、V. Myachin 氏、V.Kolovai 氏らが共同所有者となった。

（6）石油ビジネス

1980 年代末、ゴルバチョフ改革の中で、70 の石油精製工場に製品を自主的に輸出する権利が与えられた。レニングラード州キリシにあるキリシ石油精製工場もその権利を得て、Kirishineftekhimeksport という石油製品輸出企業を創設した。その企業長となったのはキリシ石油精製工場工場長代理の V. Smirnov 氏（表参照）であった。Kirishineftekhimeksport は 1995 年に民営化され、公開型株式会社 Kineks となった（49%国有、51%従業員所有）。従

業員集団を指導するのは Smirnov 氏、Timchenko 氏、Katkov 氏、Malov 氏であった。1990 年代、彼らのビジネスは急成長した。Sovkomflot（ソ連時代に設立された国有商船会社）のタンカーをチャーターしたり、エストニアの港湾施設を利用した。Timchenko 氏は、この時期にプーチン氏と知り合いになったと述べている（ドレスデンの KGB 時代に 2 人は同僚であったとの説があるが、Timchenko 氏はそれを否定している）。

（7）協同組合 Ozero（湖）

プーチン氏はレニングラード州コムソモリスコエ湖畔に別荘を持っていた。1996 年にプーチン氏らは協同組合 Ozero を設立し、付近の別荘地開発を行った。発起人はプーチン氏の他に Kovalchuk 氏、N. Shamalov 氏（表参照）、Myachin 氏、Smirnov 氏、Yakunin 氏、Fursenko 兄弟である。プーチン氏と Smirnov 氏以外の 5 人は、Rossiya 銀行の設立者である。このようにプーチン氏が大統領になる前、さまざまな機会にプーチン氏の知己を得た少なからぬ人々が互いにビジネス上の関係を深め、2000 年にプーチン氏が大統領になって以降、実業家として大きな成功を収めていった。

おわりに

本書の著者のモクロウソヴァ氏は次のように結論する。(1)1990年代に何人かの企業家たちが運よくプーチン氏の知遇を得ることができた、(2)2000年以降、プーチン氏が政権の座に就くと、彼らは長者番付に載るような人物になっていったが、それはプーチン氏との古くからの知遇のおかげである、(3)しかし「プーチンの友」といえる実業家たちが、他の実業家と大きく異なるわけではない。成功のためにはプーチン氏以外の人たちとの関係や実際の経営能力が必要とされた。

引用文献：

Milov, V. et al. ed. [2011] Putin. Korruptsiya, M

(<http://www.putin-itogi.ru/putin-i-korruptsiya/>)

Mokrousova, I. [2011] Druz'ya Putina : Novaya Biznes Elita Rossii, M.

“Reiting rossiiskikh milliarderov 2011,” Finans, no. 5 (384) , 2011.

World Bank and IFC [2012] Doing Business 2012 : Russian Federation

〔執筆〕 加藤志津子 （明治大学経営学部教授）

（※このレポートは、三菱東京 UFJ 銀行グループが海外の日系企業の駐在員向けに発信しているウェブサイト MUFG BizBuddy に 2012 年 8 月 7 日付で掲載されたものです。）